

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 120

学校名・団体名	伊仙町立阿権小学校
HPアドレス	なし
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	世界自然遺産登録に向けて自分たちの地域をアピールする。

〈活動・研究の意義、目的〉

・本校区には、素晴らしい自然が歴史的価値のある石垣や建物などと融合しながら存在している。校区の人々の暮らし、伝統や文化に関する探究的な学習を通して、自分の地域の良さに気づき、地域への誇りと愛着の気持ちをもつことができるようになることは大変意義のあることである。さらに、学習で調べたことをたくさんの人たちに伝えることで、世界自然遺産登録へ貢献することもできるのではないかと考えた。また、本校は、極小規模校であるため、たくさんの方の前で発表する機会はほとんどないが、大勢の人に向けて、自分たちが調べたことや思いを伝えるよい機会をえることができる。今後、観光客が増えていくことが考えられるが、経験を重ねながら、子どもたちがさらに成長し、自信を持って、地域の良さをアピールしていけるようにしていきたい。

1 島っ子ガイドまでの取組

島っ子ガイドは、総合的な学習の時間に、3年生以上（12名）の児童で行っている。

- ① グループを編成する。
- ② グループ毎に紹介したい場所を決める。
- ③ 紹介する場所について調べ、原稿を作る。
- ④ ガイドに必要な教材を準備し、練習を行う。

2 島っ子ガイドの実際

- ① 徳之島は、毎年6月にトライアスロン大会が開催され、全国から多くのアスリートたちがやってくる。大会参加のためや応援に来島された方々を対象にガイドを行った。



6月22日（木）
トライアスロン大会前に（参加者 8名）
（参加者の感想）

- ・大会参加のために10回以上徳之島を訪れているが、こんなところがあることを知らなかった。
 - ・楽しくガイドをしてもらって、うれしかった。 等
- ☆ このときの参加者とは、翌日のキッズトライアスロンに参加した本校児童の応援をしてもらったり、本大会当日は校区を挙げて、参加者の応援をしたりと、児童の心に残る交流が行われた。

また、たまたま観光をしていた人たちもツアーに参加してくれるなど思いがけない出来事もあった。

6月26日（月） トライアスロン大会後に（参加者 18名）



（参加者の感想）

- ・丁寧に説明してくれて、とても分かりやすかった。
- ・休憩時間を設け、お茶やお菓子まで準備してくれた心遣いがうれしかった。
- ・元気よくガイドしてくれて、ありがとう。 等

- ② 11月24日（金）

遠足で訪れた他校の児童を対象に

（参加者 12名）



隣の町にある小規模校の学校が、遠足のコースに本校の島っ子ガイドを入れてくれた。

本校児童は、これまで大人を相手にガイドをしてきたので、同じ小学生にガイドすることに初めは、緊張も見受けられたが、ガイドが進むにつれて、お互いに打ち解け、楽しんでいる様子が見受けられた。

（本校児童の感想）

- ・ガイドをする相手に合わせて、言葉を選んだり、ガイドするコースを選んだりした方がいいと思った。
- ・ガイドをすることに慣れてきて、楽しかった。

③ 2月9日(金)

JICAの方々をお迎えして (参加者 20名 JICA9名を含)

初めて外国の方々を相手にガイドをすることになった。通訳を通してのガイドだったが、道々で、自分から積極的に話しかけコミュニケーションを図る子どもたちの姿が見受けられた。

また、これまでのガイドの反省で、ただ紹介するだけでなく、体験活動も入れた方がいいという子どもたちの意見から、神社では手作りのおみくじを引いてもらったり、地域に伝わる『ふり茶』体験をしてもらったりする活動も取り入れた。6月のときのお茶菓子は、職員がつくった物だったが、今回は、子どもたちが自ら手作りした。ふり茶の説明は、みんなで一文ずつ分担して覚えた英語で行った。がんばって覚えたかいがあり、大変喜んでもらった。



Tシャツやのぼり旗、ガイド旗のデザインも全部、自分たちで考えた。すっかりガイド役に慣れてきた。

(参加者の感想)

- ・子どもたちの自分たちの地域や伝統を大切にしようという気持ちが伝わってきて、胸が熱くなった。
- ・自分の国へ帰って、同じような活動をしてみたいと思った。

3 世界自然遺産登録シンポジウムへの参加

世界自然遺産シンポジウムに参加して、島っ子ガイドの様子を紹介することになった。これまでのガイドの経験を生かし、舞台の上でも、堂々と発表することができた。会場からの大きな拍手は子どもたちの自信につながったと思う。



4 これからの島っ子ガイド

今年度、4回の島っ子ガイド・シンポジウムへの参加を通して、子どもたちには、たくさんの素晴らしい出会いがあった。温かい交流や子どもたちのがんばりを賞賛する声が、子どもたちの自信へとつながり、ガイドを終えて、学校に帰ってくる子どもたちの成長は目に見えるようだった。初めは、緊張気味だった子どもたちが、参加者を楽しませよう、そのためにまず自分たちが楽しもうと紹介の仕方に工夫を凝らすようになっていた。なにより、自分たちの地域の良さを伝えたいという気持ちがとても強くなってきた。

来年度は、新3年生を加えて、また、新たな島っ子ガイドが始まる。子どもたちの視線でとらえた地域の良さを、子どもたちの言葉で、より多くの人に伝えさせていきたいと思う。そのために、広報の仕方と増えるであろう観光客に伝えられるよう時数の調整をしていくことが今後の課題である。